

平成 29 年 4 月 26 日

関東支部  
会員各位

一般社団法人 全国上下水道コンサルタント協会  
関東支部長 菅 伸彦

## 第 14 回身近な水環境の全国一斉調査への参加者募集について(ご案内) ～あなたも身近な河川の水質を調べてみませんか～

拝啓 時下ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

日頃より本協会の活動にご理解とご協力を頂き、誠にありがとうございます。

さて、近年、河川や水辺など身近な水環境に関する市民の関心が高まっていることを背景に、市民や子供達による河川の水質の調査が各地でおこなわれるようになってまいりました。しかし、調査の方法や調査項目などが統一されておらず、また水質の測定精度も十分に保証されていない等の問題点が指摘されておりました。

この様な状況を鑑みて、国土交通省と(公財)河川環境財団によって 2004 年 6 月より「身近な水環境の一斉調査」が実施されることとなりました。これにより調査方法や調査項目が統一され、同一の機材や試薬を使用することにより、測定精度も保証されることとなりました。また、全国で同日に実施された調査結果を全国地図に記入することにより、わが国の河川の水質状況が一目でわかるようになりました。そして、参加人員も年々増加し、13 回目となる 2016 年の調査までに全国で参加した延人数は、市民や子供たちを含めて約 92,000 人に達しています。

水コン協関東支部もこの活動の意義に賛同し、平成 19 年度から「身近な水環境の一斉調査」へ参加しており、今年度で 11 回目の参加となります。つきましては、この水質調査の意義に賛同され、参加していただける方は別紙申込書により申込頂きたいと存じます。

なお、参加者数は 55 名とさせていただきます。申込者が 55 名を超えた場合は抽選となりますこと、あらかじめご承知下さい。

また、参加者には CPD プログラム証明書の発行に向けて申請します。

ぜひ奮ってご参加下さるよう、ご案内申し上げます。

敬具

(注) この取り組みは水コン協が進める「『ビジョン 2015-2025』これからの上下水道サービスの担い手としての挑戦」に関連し、関東支部が行う中期行動計画の社会貢献活動(NPO/NGOとの協働)の一環です。

## 「身近な水環境の全国一斉調査」実施要領

1. 趣 旨 身近な河川等へ自ら出かけ水辺を観察し、採水して水質を測定することにより、その実態を知ることができます。また、同時に家族や近所の方々に河川の水質や水辺環境に対する関心を向けていただく良い契機にもなります。
2. 日 時 平成29年6月4日（日）午前中  
諸般の事情により実施出来ない場合は4日（日）に近い日で実施して下さい。
3. 調査場所 身近な河川で、各自が関心のある河川を自由に選んで下さい。  
(大きな河川の中に入るなど、危険な行為は絶対に避けて、安全な場所で採水して下さい。また、農業用水路やため池などの場合は、管理者の了解が必要となりますのでご注意ください。)
4. 調査項目 気温、水温、試水温度、携行形のパックテストによるCOD（化学的酸素要求量）、を調査します。  
調査方法等の説明書は、後日送付される機材の中に同封されています。
5. 使用する機材等  
水コン協事務局から、参加される方の会社へまとめてお送り致します。
6. 調査結果について  
水質調査の結果は、「調査表」へ正確に記入し、会社で取り纏めて頂き6月16日（金）までに下記へご返送下さい。  
住所 〒116-0013 東京都荒川区西日暮里5-26-8（スズヨシビル）  
（一社）全国上下水道コンサルタント協会 事務局
7. 募集人数： 55名（定員を上回った場合は、事務局にて抽選致します。）
8. 参加費 無 料（調査地点へ移動する際の交通費は、各自の負担となります。）
9. 申込み期限及び申込先  
5月19日（金）までに別紙申込書にご記入の上、FAXにて下記へお送り下さい。（一社）全国上下水道コンサルタント協会 Fax.03-6806-5753
10. 問合せ  
不明な点がございましたら、水コン協事務局の幡豆<sup>はず</sup>までお尋ね下さい。

Tel.03-6806-5751

## 11. 調査の目的と意義

- 1) 身近な河川の状況を観察し、河川水質を簡単な方法で自ら調査することにより、その実態を知ることができる。
- 2) 統一的なマニュアルに基づき調査を行うことにより、調査結果を相互に比較する際の精度が向上する。
- 3) 河川などの流域で、多くの人たちが調査することにより、面的につながりのある結果が得られる。
- 4) 同一条件で調査した身近な水環境と、他の地点の結果を比較することにより、身近な水環境の状態を評価できる。
- 5) 身近な水環境から流域へ、さらに広域の水環境へと結びつけ、水環境の保全を考える契機となる。
- 6) 水の汚れの原因を調べ、考える契機となる。
- 7) 汚れの原因が明らかになれば、水環境を保全・修復するために、身近にできる実践活動に結びつけることができる。
- 8) 調査に参加した多くの人たちと連携の気持ちを持つことができる。
- 9) 子供たちが調査に参加することにより、将来にわたって活動を引き継ぐことができる。
- 10) 環境教育を通じて、子供たちとのコミュニケーションを深める契機となる。

